

平成 29 年 度

事業実績報告書

社会福祉法人 新栄会

1. 実施事業・運営総括

自立プラザ希織では、利用者への工賃向上を図るために、希織の製品を販売し収益を上げる広報手段として、農場で栽培された花の苗木を地域の自治会・保育園・高齢者施設・学校の11か所へ配布しPRに努めました。また、製品の販路の拡大には、従来の福祉まつりや市役所でのイベントに加え、ももやま音楽祭・スーパーかねひで・JA読谷ゆんた市場・江口公民館・ピュアまつり・沖縄ツーリスト本店等への出展と併せてHPやブログの活用による販路拡大を行いました。その結果、過去5年間の中で最高の売り上げと利用者工賃支給となりました。

就労移行支援事業は、現状の利用者ニーズにあった定員数に変更し、利用者の増員を図るために、提供サービスの質の向上及び土曜日の開設による余暇支援活動の導入等に努めた結果、利用者も定員を超え、稼働率も上向きになりました。しかし、B型においては利用者の登録や稼働率は依然厳しい状況にあり課題があります。

また、利用者の体力面やその家族の送迎負担の軽減と交通安全の面から送迎サービスも開始しましたが、その中で生活介護事業の必要性が課題としてあがってきています。

放課後等デイサービス「ちゅらら」では、初めての親子行事を取り入れ、あやはしまラソン参加やBBQを実施しました。保護者の方々と児童の関わりを職員も実際に知る事が出来た良い機会となりました。

また、地域の高齢者施設との交流や山里公民館を利用した大学生ボランティアとの交流、沖縄警察署訪問や外部講師によるスポーツ行事の実施等、事業所外の方々と関わる事でコミュニケーション面や社会性の向上を目指しました。コミュニケーション面に関しては気持ちや状況の説明等が苦手な児童が少しずつ表現できるようになる等成長が見られています。

また、法人農場でのジャガイモ収穫体験を行い、卒業後の「仕事をする」事へのイメージの習得や、収穫物を実際に食すことで食育へ繋げています。

日中一時支援では、放課後等デイサービス事業と同様の活動・行事を行う事で、充実した時間が過ごせるよう支援を行いました。

利用児童の人数については、放課後等デイサービスで延べ105名の減少、1日平均9.76名と若干の定員割れがあります。また、日中一時支援では32名の減少で1日平均0.39名となりました。児童の学年が上がるにつれて下校時間が遅くなりデイでの滞在時間が短くなる事や部活に参加する等の理由での利用日数減や修学旅行、校外実習等の学校行事の関係で利用が無い児童が重なった事が要因と考えられます。

今後の課題は、行政や相談支援事業所、学校に向けた広報活動を行うと共に、障がい特性や児童の成長にあった支援の提供に繋がる職員の知識・技能の向上への取り組みとなります。

相談支援センター「さと」は、障がい者の地域生活のための相談支援ネットワーク構築を行ないました。サービス等利用計画は、利用者の意向を踏まえ、地域で社会生活を実現できるよう、関係する行政・医療・福祉サービス機関等との連携を図り、総合的なサービスの提供を行なってきましたが、職員体制が脆弱な面があり、計画的かつ効率的な事業の遂行が課題となっています。

グループホーム「ゆーキー」では、利用者2名の入退去があり、退去者の1名は、就労移

行訓練の期間の満了と健康状態等々理由で、家族との同居。もう1名は、サテライト型グループホームを利用しており、アパートでの1人暮らしを希望していた為、本人のニーズを尊重し、地域での1人暮らしへ移行しています。

また、利用者の就業及び生活実態に関する情報の収集が不十分なために、利用者の生活に乱れが生じ、ホーム利用者全体の生活リズムにも大きく影響を及ぼすケースも発生し、関係機関団体・専門機関や企業との連携の強化と夜間の支援体制の在り方が課題として表出しています。

中部地区障害者就業・生活支援センターの相談件数は、4,186件（前年比586件減）、新規登録者は108名（前年比26名増）、就職件数は、前年比を大幅に上回り94件（前年比20件増）となっています。

また、登録者を取り巻く様々な生活課題（問題）に、ケースの支援方法・対処法において関係機関団体等とその解決に向けて連携してきましたが、今後も多様な関係機関団体との協働による支援体制を構築し、さらに福祉と労働の視点から地域コミュニティの再生や地域課題の解決につなげる「地域づくり」の取り組みを充実させる必要性が明確になりました。

さらに、在職中の登録者が抱える課題に応じて就業・生活の一体的な支援は基より企業主支援として、講話を開催し職場定着に力を入れた。個々の特性が異なり専門的な視点が必要で、企業のみでの対応は難しい事もある為支援のスキルの高さが求められています。その事から、支援能力の向上を図る事と職場定着支援の計画を策定していく事が課題となっています。

法人運営においては、経理規程、就業規則、運営規程等の変更を行ない、利用者へのサービス体制、職員の福利厚生を整備に努めました。

2. 組織運営

(1) 定款及び諸規程等に関する事項

- ①経理規程（改正）
- ②就業規則（改正）
- ③共同生活援助事業所「ゆーき」運営規程（変更）
- ④自立プラザ希織運営規程（変更）
- ⑤放課後等ディサービス「ちゅらら」運営規程（変更）
- ⑥定款施行細則（改正）
- ⑦育児・介護休業規程（改正）

(2) 役員の状況

理事長及び業務執行理事の選任

(3) 理事会の開催

第1回理事会 開催通知月日：平成29年6月5日（月）

期 日：平成29年6月12日（月）

場 所：希 織

出席数：理事7名 監事1名

議 案：第1号議案 平成28年度事業報告について

第2号議案 平成28年度決算報告について

<監査報告>

第3号議案 平成29年度補正予算（第1回）について

第4号議案 社会福祉法人新栄会経理規程の改正について

第2回理事会 開催通知月日：平成29年6月12日（月）

期 日：平成29年6月27日（火）

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事0名

議 案：第1号議案 理事長及び業務執行理事の選任について

第3回理事会 開催通知月日：平成29年10月24日（火）

期 日：平成29年10月30日（月）

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事0名

議 案：第1号議案 第2次補正予算について

第2号議案 就業規則の改正について

第3号議案 共同生活援助事業「ゆーき」運営規程の一部改正について

第4号議案 自立プラザ希織運営規程の一部改正について

第5号議案 放課後等ディサービスちゅらら運営規程の一部改正について

第4回理事会 開催通知月日：平成30年1月29日（月）

期 日：平成29年2月1日（木）

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事0名

議 案：第1号議案 定款施行細則改正案について

第2号議案 経理規程改正案について

第3号議案 育児・介護休業規程案について

第5回理事会 開催通知月日：平成30年3月12日（月）

期 日：平成30年3月19日（月）

場 所：希 織

出席数：理事8名 監事1名

議 案：第1号議案 第3次収支補正予算案について

第2号議案 平成30年度事業計画案について

第3号議案 平成30年度収支予算案について

第4号議案 役員賠償責任保険加入及び保険料の負担について

第5号議案 平成29年度沖縄県社会福祉施設整備費補助金による整備事業の施設建設工事の入札参加事業者の資格及び入札予定価格・最低制限価格について

(4) 評議員会の開催

第1回評議員会 開催通知月日：平成29年6月16日（金）

期 日：平成29年6月26日（月）

場 所：希 織

出席数：評議員7名 監事0名

報 告：平成28年度事業報告について

議 案：第1号議案 平成28年度決算報告について

第2号議案 平成29年度補正予算（第1回）について

議案第3号 役員の選任について

第2回評議員会 開催通知月日：平成29年10月30日（月）

期 日：平成29年11月8日（水）

場 所：希 織

出席数：評議員5名

議 案：第1号議案 第2次補正予算について

第2号議案 就業規則の改正について

第3号議案 共同生活援助事業「ゆーき」運営規程の一部改正について

第4号議案 自立プラザ希織運営規程の一部改正について

第5号議案 放課後等ディサービスちゅらら運営規程の一部改正について

第3回評議員会 開催通知月日：平成30年3月12日（月）

期 日：平成30年3月28日（水）

場 所：希 織

出席数：評議員5名

議 案：第1号議案 第3次収支補正予算案について

第2号議案 平成30年度事業計画案について

第3号議案 平成30年度収支予算案について

(6) 監事の監査および報告

期 日：平成29年5月23日（火）

場 所：希 織

出 席：監事2名

内 容：平成28年度事業監査・会計監査

期 日：平成29年6月12日（月）

場 所：希 織

出 席：監事1名

内 容：平成28年度事業監査・会計監査結果について
理事会にて報告

3. 事 業

(1) 設置事業（施設事業報告書は別掲）

社会福祉 事業	種 別	事業名および概要
	第二種	障害福祉サービス事業就労移行支援事業 施設名 自立プラザ希織 定 員 10名 事業開始年月日 平成19年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業就労継続（B型）支援事業 施設名 自立プラザ希織 定 員 30名 事業開始年月日 平成19年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業児童デイサービス 施設名 ちゅらら 定 員 10名 事業開始年月日 平成18年4月1日
	第二種	障害福祉サービス事業共同生活援助事業 事業所名 グループホームゆーき 定 員 7名 事業開始年月日 平成24年3月1日
	第二種	特定相談支援事業 事業所名 相談支援センターさと 事業開始年月日 平成26年4月1日
公益事業		障害者就業・生活支援センターにじ 事業所名 中部地区障害者就業・生活支援センター 事業開始年月日 平成16年6月1日
収益事業		な し

(2) 受託事業

①沖縄市就労センターにおいて相談業務の実施

4. 苦情への対応に関する実施体制

第三者委員2名、苦情受付担当者、苦情解決責任者配置し実施
毎月1回（第4火曜日）を第3者委員による苦情相談日として実施

(1) 平成29年度相談状況

相談内容：職員へ作業指導で細やかに教えて欲しいとの要望があり、職員に伝達し担当部署で対応

趣味・働きたい職業・利用者同士の関係づくり・家族関係・体調の事・恋愛等々多岐にわたる悩み事相談等となっています。

月	利用者より	家族より	職員より	外部より
4月	1	なし	なし	なし
5月	1	なし	なし	なし
6月	2	なし	なし	なし
7月	なし	なし	なし	なし
8月	2	なし	なし	なし
9月	なし	なし	なし	なし
10月	1	なし	なし	なし
11月	2	なし	なし	なし
12月	2	なし	なし	なし
1月	なし	なし	なし	なし
2月	1	なし	なし	なし
3月	なし	なし	なし	なし
合計	12	0	0	0

5. 管 理

労務・会計・登記・職員の管理は、法令及び規程等に沿って、手続き及び処理がなされました。

(1) 労務管理

- ① 三六協定書、就業規則の労働基準局への提出
- ② 職員健康診断の実施 平成29年9月15日
- ③ 社会保険労務事務所との契約による法令等の管理

(2) 会計管理

税理士事務所との契約による会計指導継続導入

(3) 登記事項

平成29年度末の資産総額変更登記 平成29年6月28日

(4) 職員採用および配置 (平成30年3月31日現在)

職員 (育児休2名含む) 18名

臨時職員採用 (パート3名含む) 17名

(5) 職員配置状況：職員の配置は、各事業とも基準又は契約書に基づき、配置し事業を実施しています。

自立プラザ希織 () は臨時・嘱託職員										
施設長	就 労 移 行			就労継続 B		サービス管理責任	事務員	医 師	栄養士	調理員
	生活支援員	職業指導員	就労支援員	生活支援員	職業指導員					
指定基準	1	1	2	1	1	3	1			
4月実績	1	1	2 (2)	1	1 (1)	3 (3)	1	2		(1) (3)
3月実績	1	1	2 (2)	1	1 (1)	4 (4)	1	2		(1) (3)

中部地区障害者就業・生活支援センター					
指定基準	所長 1	就労支援担当 3	生活支援担当 1	ジョブコーチ 0	0
配置数	所長 1	就労支援担当 4	生活支援担当 2	ジョブコーチ 0	事務1 相談1

放課後等デイサービス ちゅらら				
指定基準数	所長 1	児童発達支援管理責任者 1	保育士 1	支援員 1
配置数	所長 1	児童発達支援管理責任者 1	保育士 1	支援員 4

共同生活援助事業所 ゆーき				
指定基準数	所長 1	サービス管理責任者 1	支援員 0	世話人 3
配置数	所長 1	サービス管理責任者 1 (兼)	支援員 1	世話人 3

障害者相談支援事業 さと		
指定基準数	管理者 1	相談専門員 1
配置数	管理者 1	相談専門員 1

自立プラザ 希織

1. 総括

(1) 就労移行支援事業

就労移行支援事業では、一人ひとりの障がい特性や希望などを考慮して、個別支援計画書を作成し就労に係る総合的な支援を行ってきました。

就労支援の勉強会では、個別に就職までの訓練の必要性を話し合い、課題についての振り返りや相談を実施。就職までのイメージや目標が持てるようになったと同時に意欲・意識の向上に繋がり就職まで結び付ける事が出来ています。その他にも職業自立に向けて挨拶訓練、履歴書練習、面接練習、生活面への支援など、特別に時間を設けることで効果的に支援を進めることができました。

発達障がいの方への就労支援にも取り組みました。本人の自己理解、意思決定に沿って支援しました。今2名の方が在籍し在宅就労の就職者1名、となっています。

施設外就労は、スーパーかねひで（山内市場）において、働くうえで必要な「規律・規則」の理解や接客、清掃、品出し等の作業に取り組んできました。朝のミーティング時、店内での接客（挨拶）安全面や作業目標、利用者1人ひとりの課題を確認し合い、「就職」への意識を高めることができるよう支援を行ってきました。

さらに、園芸（草花）及び農作業の作業を通じ個々の特性を見極め、集中力や作業スピードの向上を図り、それと同時に働く上で大事な「報告・連絡・相談」の必要性及び規律・規則、挨拶・言葉遣いなどのコミュニケーション能力向上での支援も強化し職場実習、雇用前の準備支援を徹底して取り組んできました。

<過去5年間の利用者・就職者数>

就労移行 平成25年度～平成28年利用定員18名、
平成29年度 定員10名へ変更

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
平均利用者数	12名	15.6名	13.5名	6.1名	11名
雇用	13名	6名	10名	2名	3名

(2) 就労継続（B型）支援事業

木工班では安全面に十分配慮し、利用者1人ひとりの能力に合った、支援に取り組みました。作業においては、各種材料・自然木を利用した子供用椅子・机、飾り棚・ミニチュア（椅子・テーブル、）ススキのほうき、自然木を活かした「大人・子供用椅子」を製作し、また、材料として使用する木材の皮むき・ペーパー掛け・オイルステン塗りの支援を実施しました。利用者個々の能力に合わせ、補助具や工程表（図式）を用いる事で正確性向上を目指

し、製作に携わる支援を行なってきました。園芸作業では、滝壺・ヤシの実・滑車、植物容器、の商品製作、観葉植物の植え付け・水掛け作業を行ないました。

公園清掃・草刈り作業委託業務は、沖縄市役所公園課より4箇所（比嘉公園・胡屋第二公園・カメ公園・グルクン公園）の業務委託を受け、週3回（月・水・金）の午前中を公園清掃、月1回の草刈り作業を実施しました。清掃作業では、ほうき・レーキの使用方法や手順に沿って取り組めるよう支援を行い、トイレ清掃ではデッキブラシ・便器用ブラシの使用方法や手順沿った作業の支援を行ないました。草刈り作業では、手押しの草刈り機の操作方法、刈り方の手順や安全管理を支援し、刈った芝・草の収集・袋詰めなど作業を分担し、個々が責任を持って取り組めるよう支援を行いました。また、個人宅の草刈り作業・整備作業も取り入れました。

福祉祭り・ももやま音楽祭等、地域イベントに積極的に参加する事で、生産する意欲が持てるよう支援に取り組んできました。施設外（インプレッション那覇・JA ゆんた市場）等での製品展示・販売にも取り組んできました。

ちゅいたれ一班は、1人ひとりの作業意欲の向上を目標に個別のスケジュール表や、作業手順書を使用し、作業工程の理解度を高める配慮をしてきました。新商品の開発や個々の能力向上など、やりがいをもって作業に取り組めるよう支援を行なってきました。また、多肉植物・花卉管理では、季節に合わせた水やり、寄せ植えや株分け等の作業にも取り組み、草花栽培においては、播種、土づくり・ポットへの土入れ・移植・灌水・納品までを行ない、花卉管理ができるよう支援しました。

室内作業は商品製作の工程を分担して取り組み、一人ひとりに合った補助具を作成し、能力・意欲向上を目指した支援を行ない、紙すき、レースたわし、製作に力を入れてきました。ランの容器は、デザイン性と植物の特徴に合わせた試作品の製作を行ないました。その他、JA ゆんた市場（12月常設販売）及び地域イベント（ももやま通り音楽祭）、北谷町栄口公民館、沖縄市福祉まつり等を中心に販売を行なってきました。

洗濯作業は、施設内で使用している布巾・雑巾の洗濯・干し・片付けまでの作業に責任を持って取り組めるようスケジュール表を使用し支援しました。

沖縄県交通安全協会より、交通安全週間に市民に配布するお守り製作を受注し、納品を行ってきました。

農作業においては、ジャガイモ、野菜類等の栽培を行うと共に、ハウス内のマンゴーの肥培管理、11月期より、ラン（胡蝶蘭、カトレア）等の肥培管理、及び園芸作業場、農場の作業場環境等、利用者の安全面に十分配慮した施設整備を行いました。

縫製・刺繍班では、注文製品を中心に作業を行ってきました。昨年に引き続き沖縄市立図書館からの受注の「絵本バック」は、今年度1600個納品してきました。

またドリンクパック製品においても、手話協会沖縄支部より、3,000個の受注があり、絵本バックと並行して製作を行いました。その他幼稚園のスモック・エイサー衣装・エプロンなどの受注もありました。

沖縄の伝統的な生地を利用して製作する民芸品（エコパック・小物）や、キャンパス生地を用いた商品を製作し、従来の施設内販売や福祉まつりでの出店に加え、今年より新たに、ももやま音楽祭・北谷町栄口公民館での出張販売を行い販路を拡大しました。

委託販売では、バリアフリーネットワーク会議の託児所・観光案内所のみで販売してい

ましたが、新たに JA おきなわ「ゆんた市場」・美容室優、沖縄ツアーリスト本店内カフェでの販売も始まりました。

既存のホームページに加え、新たにブログを活用し多くの方々に希織の商品を知ってもらえるよう情報を発信してきました。

<就労継続 B 型 > 過去 5 年間の平均利用者数

平成 25 年度～平成 28 年利用定員 22 名、

平成 29 年度 定員 30 名へ変更

年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
平均利用者数	22.61 名	22.65 名	20.67 名	20.5 名	26.2 名

(3) 就労継続 (B 型) 支援事業 過去 5 年間の収支・利用者工賃

	年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
木工班	収入	1,352,183	1,253,368	1,538,504	1,845,802	1,885,666
	支出	1,322,305	1,171,535	1,260,279	1,192,294	1,380,279
支出うち利用者工賃		734,123	704,410	644,270	705,852	850,391
差 額		29,898	81,833	278,225	653,508	505,587
縫製・刺繍班	収入	2,067,676	2,214,054	1,077,438	1,762,755	3,075,506
	支出	2,698,868	1,961,455	1,422,847	1,716,595	2,044,639
支出うち利用者工賃		958,419	959,467	880,722	988,719	1,290,131
差 額		368,808	252,599	△345,409	46,160	1,030,867
ちゅいたれ～班	収入	357,806	363,837	311,134	198,175	748,284
	支出	671,478	773,676	686,906	559,424	916,780
支出うち利用者工賃		674,677	710,321	672,024	446,060	624,409
差 額		△313,672	△409,839	△375,772	△361,775	△168,496
総 収 入		3,777,665	3,831,259	2,927,076	3,806,732	5,709,456
総 支 出		3,692,651	3,906,666	3,370,032	3,447,839	4,341,698
総利用者工賃		2,367,219	2,374,198	2,152,016	2,140,631	2,764,931
差 額		85,014	△75,407	△442,407	358,893	1,367,758

2. 処遇・支援状況

(1) 日課

月曜から金曜日までの日課は下表の通りで、年間の行事実施や毎月、第3金曜日には、クラブ活動(午前日課)、全体集会を実施しました。

8:30	9:00	12:00	13:00	15:45	16:00								
出勤	清掃	朝会	作業	休憩	作業	給食	休憩	作業	休憩	作業	片付け	終会	帰宅

(2) 支援内容

各利用者の希望を基に作成した個別支援計画に沿って下記の支援を実施しました。

①作業支援

木工園芸・公園清掃作業、縫製・刺繍作業、手芸作業、農園芸作業、請負作業の班において障がい特性に応じた技術支援・援助を実施しました。作業収入から必要経費を差し引いた額を、工賃規程に基づき評価し、工賃や特別手当として支給しました。

②社会生活支援・日常生活支援

施設の利用者は、本人や家族の希望を基に計画相談員と共に作成したサービス等利用計画をもとに必要な福祉サービスを利用しています。何らかのストレスや不満等の訴えや、行動障害(情緒不安定行動・不適応行動)が起こることもありますが、その都度、専門的な援助技術を用いて問題解決・緩和に努め、必要に応じてケース会議(支援方法・職員体制)や家族との連絡(連携)、計画相談員、他の福祉サービスとの連絡調整を密に実施してきました。日常生活支援に関しては、整容、清潔、排泄(入浴支援)支援や、時間のけじめ等についての支援を実施しました。

③医療・保健衛生・健康管理

サービス管理責任者を中心に各作業担当と連携の上、全体的な健康管理等の確認を行ってきました。また、個々の利用者のニーズに沿って、体調管理や薬の服薬などの支援を家庭と連携し支援を行ないました。

利用者の健康診断を9月と3月の年2回実施し健康診断結果を本人へ通知を行い、利用者個々の健康保持の支援に繋がってきました。

④スポーツ・余暇活動

毎月、第3金曜日の午前中をクラブ活動日として、ティーボールやソフトミニバレー、グランドゴルフやレクレーション等の活動を行い、各利用者の希望に合わせて運動とレクに取り組み心身のリフレッシュを図ってきました。また、毎年開催される施設利用者球技大会や、ゆうあいスポーツ大会に向けて、球技のルールや集団行動での約束等の支援も実施しました。

⑤家族との連携

事業説明明会では日頃の利用者の作業風景や就労状況を見学し、家族も一緒に作業体験ができる場を設定しました。家族も多数参加し、家族との情報共有もできる場となりました。

⑥地域活動

就労移行支援事業での特別就労支援の一環として施設近隣の地域（山里・山内）の美化活動を行いました。

⑦一般雇用に向けた就労支援

個別に就職まで目標・課題について面談での振り返りや相談を実施し就職までのイメージや目標が持てるよう支援に取り組みました。また、特別就労支援や施設外授産での作業を通して障がい特性や適性を見極めを行い、職場開拓に取り組んできました。職場実習と同時にジョブマッチングを図り意欲・意識の向上へ繋げ就職まで結び付けるケースが多くなっています。その他にも職業自立に向けて挨拶訓練、履歴書練習、面接練習、生活面への支援など、特別に時間を設けることで効果的に支援を進めることができました。

⑧送迎サービス支援

平成29年8月に送迎サービス利用について、利用者へのアンケート調査を実施、18名の皆さんのサービス利用希望があり、平成30年1月より、実施地域として、(沖縄市、北中城村、中城村、宜野湾市、北谷町、読谷村)送りのサービスを開始しました。

(3) 諸行事実施状況

月	主催行事・活動	各イベントへの参加	安全・非常災害対策	給食 保健衛生関係	家族等への支援	その他
4					事業説明会	
5	フラワーアレンジ			残食調査		
6	あじさい園見学	施設利用者球技大会		厨房害虫駆除作業		
7						
8	開所19周年 ミニ運動会					
9	定期健康診断	障がい者就職面接会		嗜好調査 厨房害虫駆除作業		
10		赤い羽根街頭募金運動 沖縄市福祉まつり	防災訓練			
11		ゆうあいスポーツ大会 ももやま通り音楽祭		貯水槽清掃		
12	宿泊訓練 忘年会 年末大掃除 御用納め	沖縄市障害者展示フェアー		残食調査 厨房害虫駆除作業		
1	年始会					
2	桜まつり見学					
3	定期健康診断 (第2回)			嗜好調査 厨房害虫駆除作業		
定期的活動	クラブ活動 ソフトバレー・テーパー (第3金曜日)		施設安全点検	給食会議(第4火曜日) 誕生祝い食(第1水曜日) 紅茶の日(水・金)		苦情解決 (随時) 第三者委員 毎月第4火曜日

3. 希 織 利用状況

(1) 入退所状況

①就労継続支援事業 (B型)

平成30年3月31日現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
退所	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	0	5

・入所者：男性2名、女子1名・退所者：男性2名、女子3名(1名就職)

②就労移行支援事業

平成30年3月31日現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	0	1	0	3	2	0	0	0	3	1	0	1	11
退所	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	6

- ・入所者：男性8名 女性3名
- ・就職による退所者：男性1名、女性2名
- ・その他の退所者：男性4名

(2) 出身市町村別

①就労継続支援事業 (B型)

平成30年3月31日現在

	沖縄市	宜野湾市	うるま市	北谷町	中城村	読谷村	計
男性	5	0	0	3	1	0	9
女性	11	1	0	2	1	0	15
計	16	1	0	5	2	0	24

②就労移行支援事業

平成30年3月31日現在

	沖縄市	宜野湾市	うるま市	北谷町	北中城村	読谷村	計
男性	2	1	2	1	1	1	8
女性	3	1	0	0	0	1	5
計	5	2	2	1	1	2	13

- ・利用者は、37名中、沖縄市が21名で56%を占めております。
- ・その他、宜野湾市、北谷町、北中城村、中城村、うるま市、読谷村などから施設を利用しており中部の広範囲にわたっています。

(3) 年齢別

①就労継続支援事業 (B型)

平成30年3月31日現在

年齢	20～24	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59	60～69	計
男性	0	2	0	2	2	2	1	9
女性	0	2	5	3	3	2	0	15
計	0	4	5	5	6	2	1	24

②就労移行支援事業

平成30年3月31日現在

年齢	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～59	計
男性	2	1	4	0	0	1	8
女性	0	2	0	0	2	1	5
計	2	3	4	0	2	2	13

(4) 療育手帳の判定状況

①就労継続支援事業 (B型)

平成30年3月31日現在

	A1 (最重度)	A2 (重度)	B1 (中度)	B2 (軽度)	精神障が	計
男性	1	0	6	1	1	9
女性	0	5	5	4	1	15
計	1	5	15	5	2	24

②就労移行支援事業

平成30年3月31日現在

	A1 (最重度)	A2 (重度)	B1 (中度)	B2 (軽度)	精神障が	計
男性	0	0	2	4	2	8
女性	0	0	1	4	0	5
計	0	1	2	8	0	13

(5) 障害等の状況

①就労継続 (B型) 支援事業

平成30年3月31日現在

	知的障がい	知的障がい と身体障がい との重複	知的障がい と精神障がい との重複	知的障がい と視覚障がい との重複	発達障がい	精神障がい	計
男	8	0	0	0	0	1	9
女	11	2	1	0	1	1	15
計	19	2	1	0	1	1	24

②就労移行支援事業

平成30年3月31日現在

	知的障がい	知的障がい と身体障がい との重複	知的障がい と精神障がい との重複	知的障がい と視覚障がい との重複	発達障がい	精神障がい	計
男	4	1	1	0	1	1	8
女	5	0	0	0	0	0	5
計	9	1	1	0	1	1	13

4. 備品設備状況

(1) 冷蔵庫 (厨房内)	281,880円
(2) 冷蔵庫 (厨房内)	288,360円
(3) デスクトップパソコン	152,064円
(4) デスクトップパソコン	152,064円

5. 実習ボランティア受入れ・研修等

研修・実習ボランティア等

(1) 研修状況

①施設内研修

期 日	研 修 内 容	参加人数
H29. 8. 4	新栄会の設立理念について	12名
H29. 10. 20	虐待防止について 講 師 稲福和浩 (沖縄中央育成園施設長)	12名

②施設外研修

期日	研修・説明会	主 催	参加者
H28. 6. 20	社会福祉制度改革説明会	沖縄県	伊佐
H29. 7. 4 ～7. 5	全国知的障害者関係施設長 会議	日本知的障害者福祉協会	伊佐
H28. 7. 2	第5回就労移行支援タウンミ ーティング	全国就労移行支援事業所連 絡協議会	横田
H29. 7. 26	発達障害者就労支援基礎講 座	沖縄県発達障がい者支援セ ンター	水川
H29. 7. 26	平成 29 年度社会福祉法人監 査・労働管理セミナー	沖縄県社会福祉協議会	知花
H29. 8. 8	平成 29 年度就労支援実践 研修	沖縄県障害者職業センター	町田
H29. 9. 6	沖縄市虐待防止研修	沖縄市障がい福祉課	伊佐
H29. 11. 7	労働関係セミナー (働き方改 革で求められる生産性の高 い職場の作り方)	沖縄県社会福祉事業共済会	伊佐
H29. 11. 29	平成 29 年度障害者等雇用啓 発セミナー	沖縄県障害者職業センター	新垣

30. 1. 17	雇用促進フォーラム	中部地区障害者就業・生活支援センターにじ	伊佐 知花 横田
H30. 1. 19	平成 29 年度 支援庶務課長研修会	沖縄県知的障害者福祉協会	知花 横田
H30. 1. 23	人事考課セミナー 給与体系セミナー	社会保健労務士 江尻事務所	伊佐
H30. 3. 2 ～3	全国障害者就労支援ローカ ルネットワーク	全国障害者就労支援ローカ ルネットワーク in Okinawa	横田
H30. 3. 24	障害者福祉サービス等事業 所集団指導	沖縄県障害保健福祉課	知花 當銘

(1) 実習・研修・ボランティア受け入れ

期 日	実習・研修内容	人 数	学 校 名
H29. 6. 5～6. 15	特別支援学校現場実習	1	美咲特別支援学校
H29. 6. 5～6. 16	特別支援学校現場実習	2	はなさき分校
H29. 7. 24～7. 28	特別支援学校現場実習	1	はなさき分校
H29. 8. 21～8. 29	特別支援学校現場実習	1	泡瀬特別支援学校
H29. 10. 16～10. 20	特別支援学校現場実習	1	美咲特別支援学校
H30. 1. 22～2. 2	施設実習	1	沖縄中央学園
H30. 2. 5～2. 16	施設実習	1	沖縄中央学園
H30. 2. 13～2. 26	施設実習	2	沖縄キリスト教短期大学
H30. 3. 12～3. 26	施設実習	1	沖縄中央学園

放課後等デイサービス・日中一時支援事業

1. 総括

平成 29 年度は、初めての親子行事を取り入れ、あやはしまラソン参加やBBQを実施しました。親子の関わりを持てる場や保護者間の繋がりを築き情報交換の場として、企画・実施をし、保護者の方々と児童の関わりを職員も実際に知る事が出来た良い機会となりました。

また、地域の高齢者施設との交流や山里公民館を利用した大学生ボランティアバンドとの交流、沖縄警察署訪問や外部講師によるスポーツ行事の実施等、事業所外の方々と関わる事でコミュニケーション面や社会性の向上を目指しました。コミュニケーション面に関しては気持ちや状況の説明等が苦手な児童が少しずつ表現できるようになる等して成長が見られています。

また、平成 28 年度に続き法人ドリームファームでのジャガイモ収穫体験を行い、高校卒業後の「仕事をする」事へのイメージの習得や、収穫物を実際に食すことで食育へ繋げています。日中一時支援では見守り程度の一時預かりとなっていますが、放課後等デイサービス事業と同様の活動・行事を行う事で、充実した時間が過ごせるよう支援を行いました。

利用児童の人数については、放課後等デイサービスで 105 名の減少となり 1 日平均 9.76 名と定員数が若干割れています。また、日中一時支援では 32 名の減少で 1 日平均 0.39 名となりました。児童の学年が上がるにつれて下校時間が遅くなりデイでの滞在時間が短くなる事や部活に参加する為等の理由で利用日数が減少している点や修学旅行や校外実習等の学校行事の関係で利用が無い児童が重なった事が要因と考えられます。今後の課題としては、行政や相談支援事業所、学校に向けた広報活動を行うと共に、障がい特性や児童の成長にあった支援の提供に繋がる職員の知識・技能の向上が必要となります。

2. 開所日及び時間

平日（月曜日～金曜日）：10時～19時

土曜日・長期休暇：8時30分～17時30分

3. 利用人数

(1) 放課後等デイサービス事業

延べ利用人数 2843 名 延べ開所日数 291 日 年平均利用者数 9.76 名

月の 利用 人数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	262 名 (25 日) (10.48 名)	230 名 (24 日) (9.58 名)	228 名 (25 日) (9.12 名)	259 名 (25 日) (10.36 名)	280 名 (26 日) (10.76 名)	225 名 (24 日) (9.37 名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	200 名 (23 日) (8.69 名)	223 名 (24 日) (9.29 名)	223 名 (23 日) (9.69 名)	237 名 (23 日) (10.30 名)	217 名 (23 日) (9.43 名)	259 名 (26 日) (9.96 名)

※利用人数の下は、開所日と1日の平均人数です。

(2) 日中一時支援事業

延べ利用人数 115 名 延べ開所日数 291 日 年平均利用者数 0.39 名

月の 利用 人数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	7 名 (25 日) (0.28 名)	11 名 (24 日) (0.45 名)	15 名 (25 日) (0.60 名)	13 名 (25 日) (0.52 名)	20 名 (26 日) (0.76 名)	8 名 (24 日) (0.33 名)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	9 名 (23 日) (0.39 名)	5 名 (24 日) (0.20 名)	4 名 (23 日) (0.17 名)	8 名 (23 日) (0.34 名)	4 名 (23 日) (0.17 名)	11 名 (26 日) (0.42 名)

※利用人数の下は、開所日と1日の平均人数です。

(3) 過去5年間の延べ利用人数、延べ開所日数、年平均利用者数

	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
デイ	2843 名 (291 日) (9.76 名)	2948 名 (290 日) (10.16 名)	2649 名 (290 日) (9.1 名)	2307 名 (292 日) (7.9 名)	1808 名 (292 日) (6.1 名)	2483 名 (292 日) (8.5 名)
日中	115 名 (291 日) (0.39 名)	147 名 (290 日) (0.5 名)	294 名 (290 日) (1.0 名)	811 名 (292 日) (2.8 名)	919 名 (292 日) (3.1 名)	948 名 (292 日) (3.2 名)

※延べ利用人数の下は、延べ開所日数と1年間の年平均利用者数です。

4. 事業内容

(1) 放課後等デイサービス事業・日中一時支援事業 行事

4月	親子あやはしマラソン、 進級祝い、誕生会	5月	ボウリング大会、誕生会
6月	調理実習、誕生会	7月	親子BBQ、誕生会
8月	県立美術博物館見学（チームラボ展） 展示・販売会、誕生会	9月	敬老の日交流会（デイサービスRycom、もろみの里）、誕生会
10月	ハロウィン交流会 （希織、沖縄警察署）、誕生会	11月	秋を楽しむ（調理実習、スポーツレク大会、作品制作）
12月	クリスマス会、 大学生バンド交流会、誕生会	1月	正月遊び、誕生会
2月	節分レク、恵方巻き作り 誕生会	3月	身体遊び・ボール遊び （外部講師：澤岷安史氏） 誕生会

① 創作活動

月ごとにテーマを決め、一作品を仕上げられるように支援を行っています。指先の訓練に加え、集中力の向上や見本を見て真似る・工夫する観察力や想像力を育めるようサポートし、個々の力に合った難易度を設定する事で、年間の作品を通して個々の成長が感じられるようにしています。

② 学習活動

学校からの宿題や、家族から学習指導の要望がある児童は要望に沿ってデイでも行えるように取り組んでいます。要望がない児童に関しても土曜日や長期休暇などに学習の時間を設けることで、集中力の持続や宿題を継続して行う事で達成感や充実感へ繋げられるように支援を行っています。

③ 日常生活動作の訓練

衣服の着脱、トイレ、食事のマナー、日々使うものの準備や片付けなど、身の回りの事が出来るように支援を行っています。デイで出来るようになった事を自宅でも行う機会を設けてもらう事で、将来の自立に向けた支援を家庭と連携して行っています。

④ 社会生活適応訓練

買い物支援を行う事で、金銭授受や店内でのマナーを学んでいます。また、DVD教材の使用や地域散策・外出支援を通して交通ルールの理解や公共の場でのルール・マナーの習得が出来るよう支援を行っています。

⑤ レクリエーション活動

集団で出来る遊びやスポーツを通して、他者との関わりが持てるよう配慮し、心身共に健康で安定した生活が送れるよう支援を行っています。

⑥ 送迎サービス

家族の要望に応じて学校や自宅への送迎を行い、乗車中のマナーや乗車、下車する時の安全確認ができるよう指導しています。

⑦ 個別支援と記録

家族の要望を確認し、活動の中に取り入れます。
活動状況を日々記録することで今までの支援のあり方を見直し、より良い支援が提供できるように努めました。家庭や学校、関係機関との情報交換や連携を深める事で、児童の成長や変化に伴う新たなニーズにも対応できるようにしました。

⑧ 児童の療育支援・保護者の相談支援

家族から児童に関して相談があった場合は、電話での対応や事業所へ直接来所をしていただき、相談内容によっては他の関係機関と連携を取りながら支援を行なっています。

5. 職員研修

①行動援護従業者養成研修課程（前期）

強度行動障がい者支援者養成研修基礎課程

参加者：横田

日 時：平成29年6月17日（土）、18日（日）

場 所：学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校

②沖縄県相談支援従事者初任者研修

参加者：喜友名

日 時：平成29年7月19日（水）、20日（木）

場 所：浦添市てだこホール

③九州地区知的障害者福祉協会児童発達支援部会沖縄大会

参加者：國吉、喜友名、崎原、横田、天願、與儀

日 時：平成29年10月12日（木）、13日（金）

場 所：ロワジールホテル那覇

④沖縄県障害者虐待防止権利擁護研修

参加者：國吉、喜友名

日 時：平成29年10月16日（月）、平成30年1月10日（水）

場 所：沖縄県総合福祉センター

⑤ S S T 講習会

参加者：喜友名、崎原、横田、天願、與儀

日 時：平成 29 年 10 月 18 日（水）

場 所：石川会館

⑥ 沖縄県児童発達支援管理責任者研修

参加者：喜友名

日 時：平成 30 年 1 月 11 日（木）、12 日（金）、13 日（土）

場 所：沖縄市民会館、沖縄県総合福祉センター

6. 学校説明会、事業所交流会

① 美咲特別支援学校懇談会

参加者：崎原

日 時：平成 29 年 5 月 17 日（金）

場 所：美咲特別支援学校 会議室

② 美咲特別支援学校はなさき分校懇談会

参加者：國吉 喜友名

日 時：平成 29 年 6 月 8 日（木）

場 所：美咲特別支援学校はなさき分校 視聴覚室

③ 障がい児サービス支援事業所顔合わせ会（沖縄市自立支援協議会 こども部会主催）

参加者：國吉、喜友名、崎原

日 時：平成 29 年 6 月 15 日（木）

場 所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

④ 障がい児サービス支援事業所顔合わせ会（沖縄市自立支援協議会 こども部会主催）

参加者：國吉、喜友名、横田

日 時：平成 30 年 2 月 15 日（木）

場 所：沖縄市福祉文化プラザ 交流ホール

グループホーム「ゆーきー」

1. 総括

共同生活援助事業（グループホーム）では、就職又は就職するための訓練をしている方を対象に、サービスを提供しています。

利用者にグループホームの規則の遵守について、その都度本人との話し合いや、全体ミーティングで取り組みに対する意識付を行ってきました。一人暮らしで必要となる近隣住民と協調して暮らすために必要なマナー（大声、TVや音楽等の音量、近隣住宅へのチリ・タバコの吸い殻の投棄等）についても面談の場を設け、課題解決に取り組んできました。

今年度は、利用者2名がそれぞれ退去していきました。1名は就労移行訓練の期間が満了し、健康状態にも不安があった為、家族の元へ帰る形になりました。もう1名は、サテライト型グループホームを利用しており、アパートでの1人暮らしを希望していた為、本人のニーズを尊重し、地域での1人暮らしへ移行しています。また、利用者の就業及び生活実態に関する情報の収集が不十分なために、利用者の生活に乱れが生じ、ホーム利用者全体の生活リズムにも大きく影響を及ぼすケースも発生し、関係機関団体・専門機関や企業との連携の強化と夜間の支援体制の在り方が課題として表出しています。

グループホームに入居されている方で、サテライトへの移行を希望する方もおりましたが、収支のバランスが崩れる恐れがあり、貯蓄をして、取り組んでいく必要性がありました。結果、サテライトは10月から休止となっております。

美化活動では庭に花などを植え、植木の剪定や雑草の除去等で利用者への美化活動への意識付も行ってきました。

また、地域住民との交流という目的から、自治会にも加入し地域の催しに参加することも実施してきました。

次年度は、他にもグループホームの利用希望者がいること、1人暮らしでの生活援助を希望、女性の利用相談も多く有る為、グループホームの創設等が課題となっております。

2. 支援員の勤務体制

変動制勤務 07:30～16:30 8:30～17:30 13:00～20:00

3. 世話人の勤務体制

3名体制 勤務時間 06:00～11:00、 16:00～21:00

4. 緊急時体制

夜間及び災害時等の緊急時連絡先等については、利用者に通知すると同時に、グループホームにも掲示等をして対応しています。

5. 利用状況

(1) 入居状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
8名	8名	8名	8名	8名	8名	8名
H29						
11月	12月	1月	2月	3月	月平均	
7名	7名	7名	7名	7名	7.5名	

(2) 出身市町村別

沖縄市	宜野湾市	那覇市	読谷村	うるま市	恩納村	合計
3名	2名	1名	1名	1名	1名	9名

※ホームの利用に出入りがあるため、合計変動があります。

(3) 年齢別状況

～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
0名	4名	2名	1名	1名	1名	9名

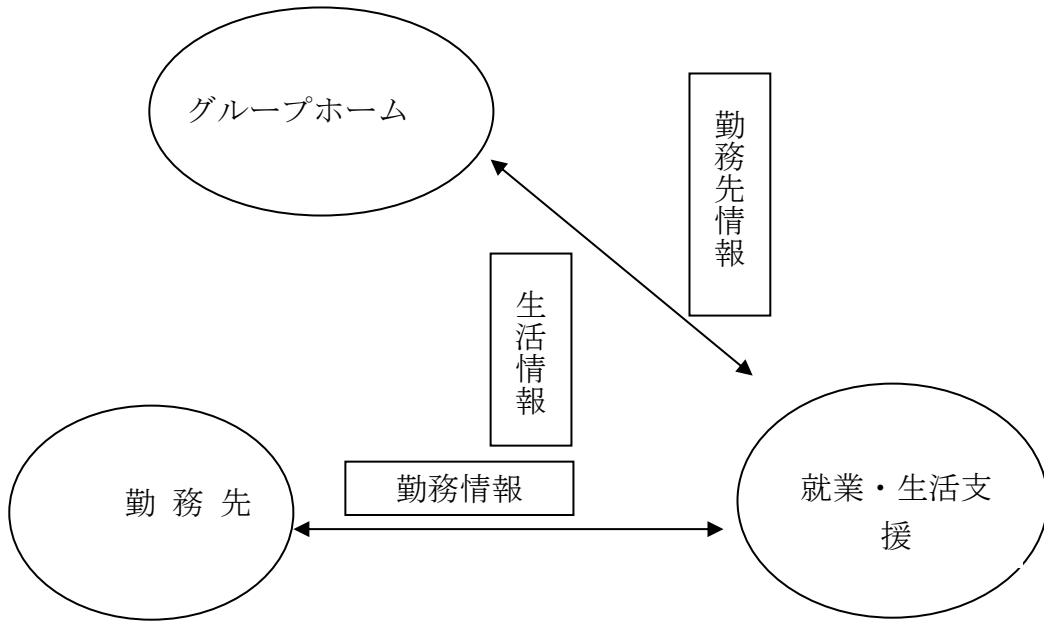
(4) 就労状況

サービス業	清掃業	クリーニング業	就労移行	合計
2名	3名	2名	2名	9名

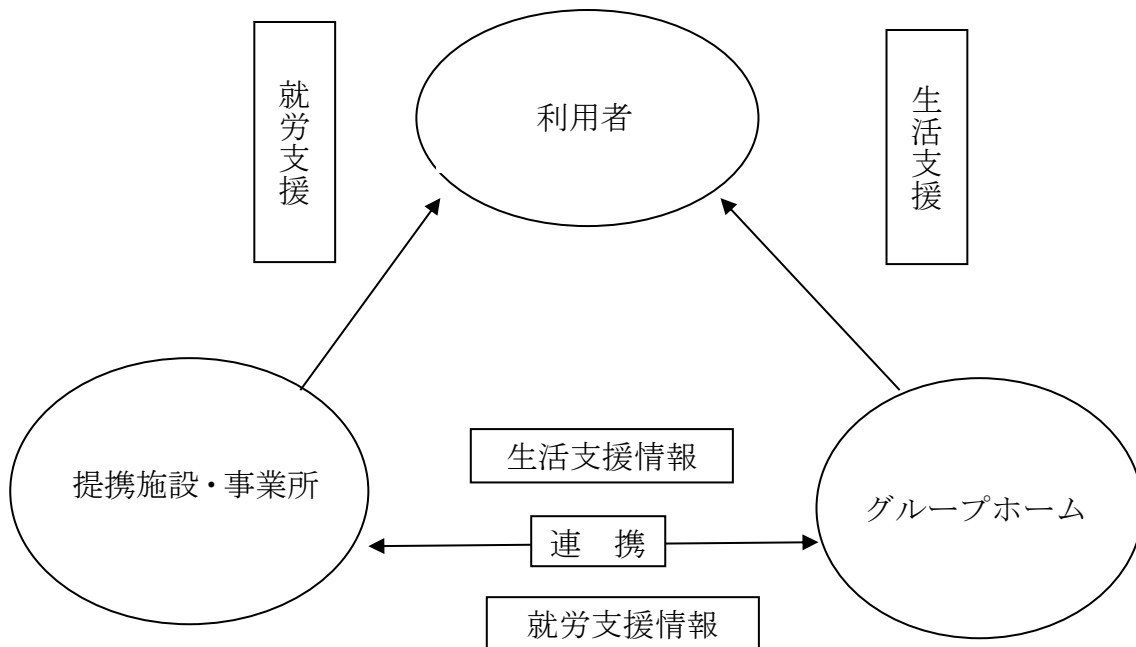
(5) 整備状況

- ① 1階台所に、冷蔵庫取り付け
- ② 1階廊下に LED ランプ取り付け
- ③ 2階居室にエアコン取り付け
- ④ 2階居室、2階トイレのドアノブ交換
- ⑤ 2階居室、壁板張替
- ⑥ 2階洗濯場に、洗濯用水道取り付け

【障害者就業・生活支援センターとの連携図】



【就労支援施設・事業所との連携図】



相談支援センター「さと」

1. 総括

計画相談の取り組みは、相談者よりサービス利用計画の作成依頼を受け付けた後、本人と面談を行ない聞き取り調査。調査の上で必要な本人の現在の状況及び今後の意向を確認に努め、計画作成にあたり、必要に応じて会議を開催しました。

また、在宅で生活されている利用者本人及び家族の生活の安定を図るために障害福祉サービスに限らず、必要な支援の提供を行ってきました。

以上のことから、本人の意向に沿うよう有効且つわかりやすい計画になるよう作成し、また、モニタリングの時期に合わせて本人と面談を実施してきました。

2. 支援方針

市町村障害福祉サービス事業者等との連携を図り、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じ、利用者の選択に基づき、適切な障害福祉サービス等が多様な事業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮した相談支援に取り組む。

指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、関係区市町村・医療・福祉サービス機関等との連携を図り総合的なサービスの提供に努める。

3. 計画相談支援およびモニタリングの実施内容

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
- ・アセスメントの実施
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス担当者会議の開催
- ・サービス等利用計画の作成
- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

4. サービス等利用計画

計画策定人数（平成 29 年度）

	身体障がい		知的障がい		精神障がい		発達障がい		合計
	平成 28 年	平成 29 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 29 年度
障がい者	21	18	40	37	36	30	1	3	128名
障がい児	1	2	7	7	0	0	24	31	
計	22	20	47	44	36	30	25	34	

5. サービス等利用計画

モニタリング件数（平成 29 年度）

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	合計
障がい者	30	42	31	3	155名
障がい児	5	10	0	34	
計	35	52	31	37	

中部地区障害者就業・生活支援センター

1. 総括

3市2町3村の中核的役割を担うセンターとして、本人、家族、ハローワーク、市町村の障がい福祉課、特別支援学校、相談支援事業所、医療、企業、就労支援施設等からの相談件数は、4,186件（前年比586件減）また、新規登録者は108名（前年比26名増）でした。新規登録者の内訳は、身体障がい者19名・知的障がい者59名・精神障がい者28名・その他の障がい2名となりました。

登録者を取り巻く様々な生活課題（問題）・金銭管理(多重債務)・性の問題・経済的虐待・健康管理等、問題ケースの支援方法・対処法において就労支援施設、市町村の障がい福祉課、医療、弁護士、企業、相談支援事業所等と課題（問題）解決に向けて連携した。今後も様々な生活課題(問題)について、隙間なく必要な支援をコーディネートする役割を担いネットワークをつくる事が求められています。上記の例から多機関の協働による支援体制を構築し、さらに福祉と労働の視点から地域コミュニティの再生や地域課題の解決につなげる「地域づくり」の取り組みを充実させる重要が明確になりました。

又、ハローワークや医療、地域自立支援協議会等と連携をし、就労支援体制の充実を図り支援に取り組んだ結果、就職件数においても前年比を大幅に上回り94件(前年比20件増)となった。在職中の登録者が抱える課題に応じて就業・生活の一体的な支援は基より企業主支援として、(障がい特性・合理的配慮)等の講話を開催し職場定着に力を入れた。個々の特性が異なり専門的な視点が必要で、企業のみでの対応は難しい事もある為支援のスキルの高さが求められた。その事から、支援能力の向上を図る事と職場定着支援の計画を策定していく事が課題となります。

2. 支援対象障害者の状況

(1) 登録状況（障害種別、就業状況）

(人)

	身体障害		知的障害		精神障害	その他の障害	合計
		(うち重度)		(うち重度)			
在職中	63	32	296	130	80	3	442
求職中	84	57	87	75	93	4	268
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	147	89	383	205	173	7	710

※就労継続支援A型に雇用されている方は在職中に含んでいません。

(2) 登録状況（合計人数の5年間の推移）

平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
444	488	546	627	710

(3) 支援対象障害者（登録者）の居住地の状況

①同一市区町村内	299
②同一障害保健福祉圏域内(①を除く)	401
③上記①及び②以外	10
合計	710

(4) 新規登録者の利用経路（支援センターを利用するに至った（経路））

①ハローワーク	22
②地域障害者職業センター	1
③特別支援学校	41
④就労移行支援事業所	4
⑤上記④以外の福祉サービス事業所	4
⑥福祉事務所、市町村役場等行政機関	18
⑦直接利用（家族を含む）	8
⑧上記以外 ※	10
合計	108

※「⑧その他」の具体的な利用経路

パーソナルサポートセンター、職業能力開発校、企業、医療機関、相談支援事業所、ホームページ

(5) 年経過時点の定着率

	身体障害		知的障害		精神障害	その他	合計
		(うち重度)		(うち重度)			
合計	100%	100%	88.1%	88.1%	91.7%		90.5%

3. 沖縄市障害者就労支援業務委託について

(1) センター登録者障がい種別・職業状況別の支援対象障がい者人数

※平成 18 年度以降累計

	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
在職中	32	21	29	0	82
求職中	66	25	64	1	156
合 計	98	46	93	1	238

(2) 相談者のニーズに基づいた関係機関への連携（件）

	中部地区障害者就業・生活支援センター	就労支援事業所	職業安定所 相談事業所	医療機関	障がい福祉課	相談のみ その他	合 計
今年度 合 計	20	2	4	0	14	75	115

(3) 年齢別内訳（件）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
今年度 合 計	3	18	9	34	38	13	115

今年度の相談件数は 115 件で、新規相談が 62 件でした。年齢別に見ると 40 代～50 代の相談が、最も多かったです。「再就職したい」、「福祉就労から一般就労へトライしたい」等の相談が多かったのが特徴的です。今後、関係機関と連携を密にし就職に向けて実習先開拓～雇用に向けて強化する事が急務だと感じます。

又、10 月には障害者雇用促進フォーラムを開催しました。精神障がい者の雇用に向けて、先進事例として、近年の IT 技術の整備により可能となった在宅雇用に取り組み職場環境や業務形態を整えた県外の企業の方を講師として招聘し、事例を紹介したフォーラムを開催しました。フォーラムをきっかけに県内の障がい者の方を 6 名（沖縄市在住 3 名）雇用につながった事は、大きな成果です。

4. 職員研修

(1) 平成 29 年 4 月 11 日

主催：沖縄市障がい者基幹相談支援センター

～寝たきりだけど社長やっています～ 佐藤仙務氏

参加者：幸地睦子・比嘉弓枝・知花えりか

(2) 平成 29 年 5 月 23 日～26 日

主催：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部 障害者職業総合センター
就業支援担当者研修

参加者：大里かおり

(3) 平成 29 年 7 月 18 日～20 日

主催：沖縄県障害者職業センター
就業支援基礎知識研修

参加者：池原健

(4) 平成 29 年 7 月 26 日

主催：沖縄県発達障害者支援センター
沖縄中部療育医療センター
発達障がい者への就労支援

参加者：大里かおり

(5) 平成 29 年 8 月 8 日

主催：障害者職業センター
就業支援実践研修

参加者：浦田理実子

(6) 平成 29 年 11 月 9 日～10 日

主催：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業リハビリテーション研修・実践発表会

参加者：幸地睦子・山城健一・安谷屋樹

(7) 平成 29 年 11 月 28 日～29 日

主催：沖縄労働局職業安定部職業対策課
九州・沖縄ブロック障害者就業・生活支援センター経験交流会議

参加者：大里かおり

(8) 平成 29 年 12 月 9 日

主催：沖縄県中小企業家同友会
第 12 回雇用・就労支援フォーラム

参加者：山城健一・安谷屋樹